更別スーパービレッジ構想

取組のあらまし

取組団体　北海道更別村

取組内容　高齢者が 100 歳世代まで生きがいを持って楽しく過ごせるために「更別スーパービレッジ構想」を推進。「ひゃくワクサービス」「デジタル公民館」「超なまら本気スマート農業」の三本柱を展開。ICT や AI を活用しつつも、地域コミュニティ再生を重視し、健康増進・生活支援・先端農業実装を進めている。

推進体制　５名（令和７年度）

予算等　278,879 千円（令和７年度）

1　北海道更別村の概要

人口	3,084 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職員数	60 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総面積	176.90 ㎢	令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1　更別村の位置図

出所：更別村ホームページ

２　取組の背景・目的

近年、全国各地でデジタル技術を活用した「スマートシティ」や「スーパーシティ」への取組が進展している。スマートシティとスーパーシティは、いずれもデジタル技術の活用を基盤とするが、その目的と実現手法に本質的な違いがある。スマートシティは、ICT や AI を活用して既存の都市機能を改善し、住民サービスの利便性や行政の効率化を図ることを主眼とする。一方、スーパーシティは、AI やロボティクス、ビッグデータなどの先端技術を複合的に導入し、さらに大胆な規制改革を伴うことで未来社会を先行実装する国家戦略特区的な性格を持つ点に特徴がある。

更別スーパービレッジ構想は、国家戦略特区型のスーパーシティ構想への応募から始まったものである。結果は非選定となったものの、その過程で光回線や 5G 整備、東京大学大学院のサテライトキャンパス誘致など、後の取組の基盤となる社会インフラを整備する成果を得た。

その後、国によるデジタル田園都市国家構想の推進の動きを受けて、令和４年４月に「デジタル田園都市構想推進交付金事業・TYPE３」に応募し、令和４年６月１７日に採択され、更別村は国の DX 政策の最前線に立つ位置づけを得ている。TYPE３は、社会課題解決や行政を含む幅広い領域での DX 化を先導的に進める性格を持つ事業である。

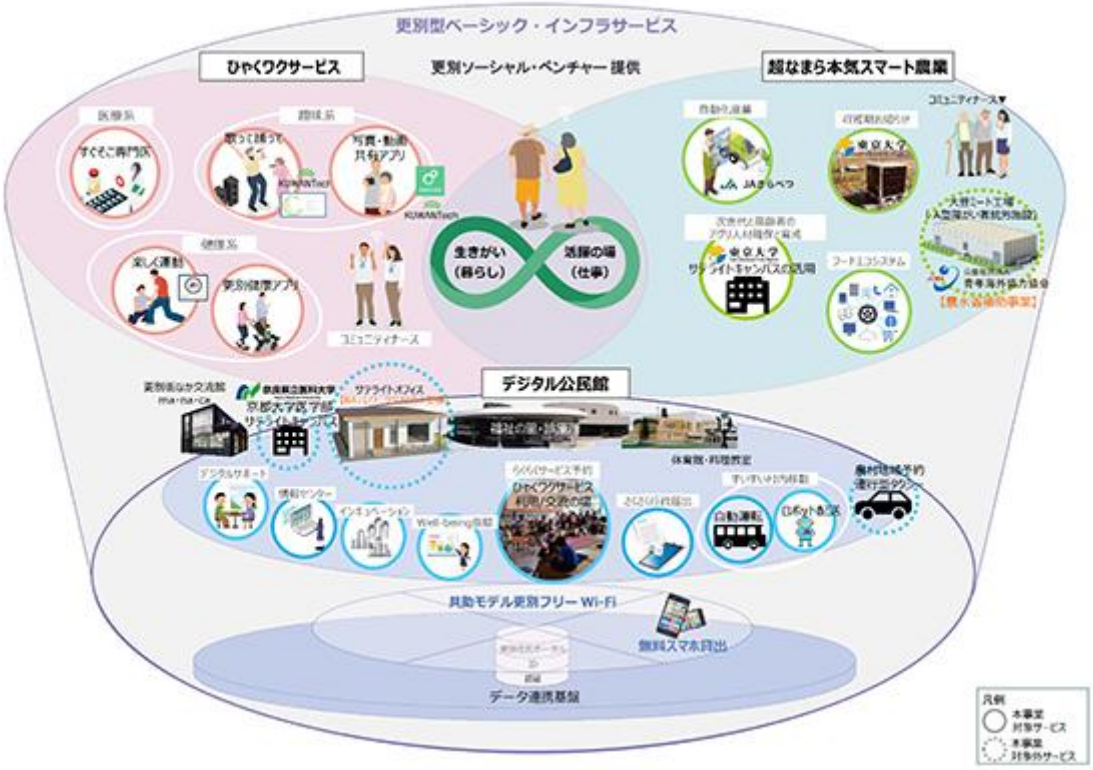
さらに同村では、総務省事業による都市 OS（データ連携基盤）の導入、国交省のスマートシティプロジェクトでの全村 3D マップ整備、サテライトオフィス誘致など、行政と産業を横断するデジタル基盤を次々と実装してきた。

同村が更別スーパービレッジ構想で目指すのは、高齢者が 100 歳世代まで生きがいを持って楽しく過ごせる社会という将来像である。高齢者を含む誰もが多様な価値観やライフスタイルを持ちながら、デジタル技術と人のつながりを両立させる地域社会の実現を掲げている。

3　取組内容

更別スーパービレッジ構想は、大きく「ひゃくワクサービス」「デジタル公民館」「超なまら本気スマート農業」の三本柱から成り立っている。その全体像は「暮らし」と「仕事」の両面をカバーし、村民の安心・健康・生きがいを支える仕組みである。

図表 ２　更別スーパービレッジ構想の全体像



出所：全国町村会 フォーラム記事「北海道更別村／100 歳までワクワク 世代を超えて みんなでつながり合う幸せな地域 更別村－更別村スーパービレッジ構想の取組－」

(1) ひゃくわくサービス

ひゃくワクサービスは、高齢者が 100 歳世代まで生きがいを持ち、楽しく過ごせるための生活支援・健康増進サービス群である。その特徴は、趣味系、健康系のサービスを組み合わせ、コミュニティナースが伴走支援する点にある。

具体的には、カラオケや健康麻雀などの趣味系サービスが展開される。健康系ではウェアラブルデバイスによる日常的な健康管理の実施や健康運動教室を開催する。

また、これらのサービスが行政の無償提供ではなく、サブスクリプション方式（月額 1,980 円～）でパッケージ化されている点も特徴的である。高齢者が多様なサービスを気軽に利用できる共助モデルを実現し、行政財政の持続性確保にも資する仕組みとなっている。さらに、コミュニティナースが高齢者の日常生活に寄り添い、デジタル機器利用のサポートも行うことで、技術導入による負担感を無くすとともに、対面による安心感も提供している。

（2）デジタル公民館

デジタル公民館は、ひゃくワクサービスを支えるインフラとして位置づけられている。村内全域に光回線を整備し、市街地では共助 Wi-Fi を展開することで、誰もが常時インターネットに接続できる環境を構築した。

こうした通信環境や令和３年度に整備したデータ連携基盤を活用し、村内の施設やサービスの予約が可能な「らくらくサービス予約」や、自動運転バスやひゃくワクサービスの利用促進のためのデマンド移動サービスの「さらクル移動サービス」、村内のお店で利用可能なデジタルどんぐりポイントサービス等を提供している。

行政手続きのオンライン化に加え、無料スマホ貸出、村内移動支援、住民講座などが一体的かつ無償で提供され、デジタルデバイドの解消と地域交流の再生を両立させる仕掛けとなっている。

（3）超なまら本気スマート農業

農業分野では、完全無人走行ロボットトラクターを導入した大豆等の栽培、ドローンによる農薬や肥料の散布などといった、先端技術の社会実装が進んでいる。また、東京大学大学院のサテライトキャンパスを誘致し、地元高校生や農業者と連携した研究・実証拠点を形成することで、次世代のアグリ人材育成を進めている。また、ＡＩ技術を活用したデータ農業や、バイオスティミュラントを利用した気候変動対応農業を推進している。

4　成果・課題

（1）本取組の成果

更別スーパービレッジ構想の実施により、サービス利用者数は着実に増加している。たとえば、ひゃくワクサービスの登録者数は初年度の令和４年度末時点で 454 人、令和７年度 11 月末時点では 1,341 人へと拡大し、増加傾向を示している。特に、令和７年 10 月には健康運動教室のひと月あたりの延べ利用者数は 83 人に達し、高齢者の健康習慣の定着に寄与していることが確認されている。

なお、健康運動教室には、高齢者だけでなく、現役世代の方も参加している。

また、サブスクリプション方式によるサービス提供についても、令和４年度末時点の契約数が 13 件であったのに対し、令和７年度 11 月時点では 30 件に増加している。これは、高齢者が自発的にサービスを継続していることを示すものであり、行政支援と住民の主体的な利用が両立している点で意義が大きい。

（2）課題

一方で、課題も少なくない。まず、行政内部における部局間調整の難しさが挙げられる。横断的な取組であるがゆえに、全庁一体となった推進体制を維持することは容易ではなく、意思決定の遅れや調整コストの増大が課題となっている。また、オンライン中心の会議体では意思疎通が十分に図れない場面もある。

次に、住民理解と参加の拡大が必要である。デジタルサービスは住民の共感と利用があって初めて定着するが、高齢者を中心に新技術への抵抗感は根強い。利用者増を図るためには、UI/UX の改善や丁寧な説明が不可欠である。

関連・参考資料

更別村ホームページ
https://sarabetsu-portal.jp/
更別村公式サイト「スーパーシティ応募に関する村長コメント（スーパーシティ非選定に関する資料）」
https://www.sarabetsu.jp/file/contents/1429/14269/super_city_comment.pdf
全国町村会 フォーラム記事「北海道更別村／100 歳までワクワク 世代を超えて みんなでつながり合う幸せな地域 更別村－更別村スーパービレッジ構想の取組－」
https://www.zck.or.jp/site/forum/25098.html